河合塾

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【 問題 】

第1問

問 6　リクさんは，インドシナ難民に関して**レポート**を作成し，それについて考察した**メモ**を書いた。**メモ１・２**の正誤について述べた文として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 7

レポート

インドシナ難民とは，1970 年代半ば以降，ベトナム・ラオス・カンボジアから自国外へ脱出し，難民となった人々の総称である。1979 年前後には，都市部で商業を営む中華系の人々が大量に国外脱出して難民となり，国際的問題となった。

こうしたなか，1979 年に日本政府はインドシナ難民の定住を受け入れる閣議決定をした。これにより，1980 年代から公的な枠組みでの支援が本格化した。政府が支援の枠組みを整備する一方で，難民との対話や生活支援の実務を，市民ボランティアが担うようになっていった。

メモ１

インドシナ難民が増加した背景としては，この時期にこれらの地域でアメリカ合衆国による北爆が開始されたためと考えられる。

メモ２

日本がインドシナ難民の受け入れを開始した背景には，この時期に高度経済成長が始まり，国内の経済状況が好転したことが挙げられる。

① **メモ１**のみ正しい。
② **メモ２**のみ正しい。
③ 二つとも正しい。
④ 二つとも誤っている。

©Kawaijuku Educational Institution.

【 ポイント 】

正解:④

歴史総合の第1問中、2番目に正答率が低かった(約 12%)設問です。最も正答率が低かった第1問 問2(約 11%)は世界史の知識が必要な設問で、よほどの高得点が必要じゃない限り無理して取りにいかなくてよいと思います。一方、ここで取り上げた問6は日本史、もしくは日本史に関連する知識で解けたので、正解してほしい設問でした。誤答は①・②が比較的多かったのですが、これは内容以上に選択する際の心理を象徴しているとも言える結果です。本問は、「インドシナ難民」という日本史探究ではあまり扱わないテーマを取り上げています。そのとっつきにくさ故に、メモ1・メモ2ともにやや判断に困ったのではないかと思います。こういう時に多くの受験生は、どちらも「正しい」、どちらも「誤っている」という選択肢を選ぶことを避ける傾向があり、どちらかを「正しい」か「誤っている」とする①・②が多くなるのです。それらをふまえた上でアドバイスしたいと思います。まず、結論から言えば、本問は日本史に関連する知識があれば、どちらも「誤っている」と判断できた設問です。知識と判断力があれば、メモ1の「北爆が開始された」時期(=1965年・佐藤栄作内閣)が、レポートの言う「1970 年代半ば以降」ではないことに気づけたはずです。また、メモ2についても、日本がインドシナ難民の受け入れを開始した時期(レポートによれば 1970 年代末～1980 年代始め)が「高度経済成長が始まった」時期(=1950 年代半ば)と離れていることに気づけたはずです。今や共通テストの問題は、何らかの形で思考力・判断力を問う設問がほとんどです。しかし、思考力・判断力を駆使するには、やはり知識が必要なのです。本問で言えば、メモ1・メモ2ともに「北爆」、「高度経済成長」に関する時期の知識が必要だったわけです。「あと 45 日」でできることは限られていますが、知識の質・量を少しでも高めていくことはできるはずです。共通テストの過去問を解きながら、この問題にはどんな知識が必要だったのか、を検証し、覚えるようにしていきましょう。

©Kawaijuku Educational Institution.